

平成28年度 教育事業

おおすみくん家 ボランティア感謝祭

- 1 趣 旨 おおすみくん家の登録ボランティア同士が集い、共に活動しながら他のボランティアの思いや考えを共有することによって、今後のボランティア活動への意欲を高める。
- 2 期 日 平成28年9月24日（土）～25日（日）1泊2日
- 3 対 象 者 国立大隅青少年自然の家登録ボランティア
- 4 募集定員 30名程度
- 5 参 加 者 大隅青少年自然の家登録ボランティア8名
- 6 講 師 国立大隅青少年自然の家 職員



7 日程・主な活動

時間	活 動 内 容	時間	活 動 内 容
13:30	受付開始（自然の家本館）	6:00	起床・準備・清掃
14:00	開講式・オリエンテーション	7:30	退所点検
14:30	アイスブレイク	8:00	朝食
15:00	おおすみくん家プログラム体験 ～スポーツクライミング体験～	9:00	おおすみくん家ボランティア座談会 ～テーマを基に熱く語り合おう～
17:30	入浴	11:30	アンケート記入・閉講式
18:30	ボランティア情報交換会（太陽の家）	12:00	解散
22:00	就寝		

8 事業運営について

- (1) 本事業は、大隅青少年自然の家に登録している法人ボランティア同士の相互交流が円滑に図れるように、1日目は、アイスブレイクや体を使ったプログラムの体験などを組み込み、ボランティア同士の人間関係づくりを主に行った。
- (2) 2日目には、ボランティア同士が、1つの目標に向かって課題を解決していく経験として、話し合い活動を組み込んだ。今年度は、九州地区ボランティア交流会のホスト施設となっていることから、テーマを「九州地区ボランティア交流会に向けてホスト施設として何を行いたいのか？」と設定し、KJ方を用いながら話し合いを進めていった。

9 事業の実際

- (1) はじめに、開講式を行った。場所は、アイスブレイクを行うことを踏まえ、コミュニティルームとした。アイスブレイクは、自己紹介を兼ね、ボランティア同士の距離が縮まるように、お互いに協力して行うような活動を選択した。自身の意外な点を紹介できるようなプログラムを組み込んだことによって、顔見知りのボランティア同士でも、相手の新たな一面を発見できた。
- (2) 初日後半は、「おおすみくん家体験プログラム」として、スポーツクライミング体験を行った。何回もチャレンジする姿が見られた。通常のクライミング体験だけでなく、普段は職員が行っているビレイヤーの体験も行った。初めてビレイを行ったという参加者がほとんどで、新鮮な気持ちで活動に取り組んでいた。
- (3) 1日目の夜には、ボランティア同士の情報交換会を行った。同じ場所で食事をとりながら、親睦を深め合った。まだ事業に参加したことのない参加者にとっては、先輩ボランティアの経験談が聞ける貴重な場となった。最初の緊張もほぐれ翌日の話合いに向けて、良い関係づくりができた。
- (4) 2日目は、KJ法を利用した話合い活動を行った。座談会ということで、堅苦しい話合いにならないように、アットホームな場作りを心掛けたことによって、各自の考えを全員で協力しながら1つにまとめることができた。九州地区ボランティア交流会に向けて、ホストとしての心構えができ、意欲が高まった。



10 参加者の感想

- 年長の方など経験豊富な方がいて成り立ったと思った。これから学ぶところは学んでいこうと思う。
- ボランティアに対する期待・思いが強く伝わった。また利用したい。



11 成果

- ボランティア同士が一度に集まる機会は、非常に少ないので、今回のような機会は、ボランティア同士が相互交流することができ、今後のボランティア参加のモチベーションを上げるきっかけとなった。
- 法人ボランティア登録をして、まだ一度もボランティアとして事業等に参加したことのない参加者もいたが、先輩ボランティアとの交流によって、自身の今後のボランティア活動の心構えができたことによって、その後の事業等の参加に繋がった。

